



# 交野おりひめ大学通信

一人じゃ出来ないことを、10人で、50人で、100人で！

令和7年7月号



交野おりひめ大学

KATANO ORIHIME University

田んぼで育む地域の糸！  
酒米づくりが繋ぐ笑顔の輪

例年になく早く梅雨が明けた  
今日この頃、毎日暑い日が続い  
ていますね。今月の大学通信は、  
6月15日に開催された酒づくり  
の会の田植えの様子をお伝えし  
ます。

毎年6月中旬に行われる酒づくりの会の酒米の田植えは、今年も多くの人々の笑顔と活気で包まれました。

今年は、「パン屋さんの子ども食堂」の子どもたちが参加し、泥んこになりながらも歓声を上

10年田の節田を迎える  
酒づくしの今の大挑戦  
げ、初めての田植えを楽しんで  
いました。

酒づくりの会は、おかげ学科からスピーカーとして形で発足し、今年で活動10年目を迎えます。交野の豊かな自然を活かし、地元の水と米を使ったオリジナル日本酒「百天満天」醸造を目指し、酒米の栽培から酒づくりまで、山野酒造さん協力のもと、手掛けられています。

酒づくりの余の活動は、春の田んぼづくりからスタートし、畔づくりや苗代づくりなどの準備を経て、畝をまき苗を育て、6月中に収穫する。この間、

皆は田植えを行っています  
全ての田んぼを手植えで、とは  
いきませんが、田んぼ2枚ほど  
は会員たちが泥にまみれなが  
ら、心を込めて一本一本丁寧に  
苗を植え付け、交野のおいしい  
水と気候風土の力を借り、すぐ  
くと育てられています。  
田植え後も、水の管理や夏場の  
炎天下での草刈り、ジャンボタニ  
シとの攻防など、様々な手入れ  
が欠かせません。  
秋には、会員みんなで稲刈りを  
行い、収穫された酒米は粒搗り  
して山野酒造さんへ運ばれ、杜  
氏さんたちの力で日本酒へと醸  
されます。

「ペーペー黙れ! そのナニシカ飯糰!」  
のナニシカ田代が  
田代にやつしやがたー。

今年の田植えが特別なものとなつたのは、「パン屋さんの子ども食堂」の子どもたちが参加してくれたことです。地域に根差した活動を開催する「パン屋さん」の子ども食堂は、「すべての子どもたちにおいしい食事を」をモットーに、私部のカジ・パンさんが、運営されています。毎月第3木曜日に、おいしいパンや手作りの温かい食事を子どもたちに提供するだけでなく、第2木曜日には、学習支援なども積極的に行われています。食事を通じて子どもたちの心と体の成長を支えるとともに、地域とのつながりを深める重要な役割を担つております。

今回は、約30名の子どもたちが、引率の保護者の方々と一緒に、田植えに参加されました。初めて田んぼに入る子どもも多く、最初は戸惑いの表情を見せる子もいましたが、泥の感触に慣れるごとに、途端に笑顔がはじけ、泥だらけになりながらも歓声を上げて、苗を植える作業に夢中になつていきました。

子どもたちの感想は、率直で、温まるもので、「田植えが楽しかつた、またやりたい!」と田を輝かせながら話す子や、「田んぼの泥が気持ちよかつた!」と泥だらけの手を見せてくる子など、全身で田んぼとのふれあいを樂しんでいるようでした。普段の生活ではなかなか経験できない泥の感触や、自分たちの手で稻を植えるという貴重な体験は、子どもたちにとって忘れられない思い出になつたのです!



田んぼの中でかけっこ!誰が早いかな?!

● そは学科 ● おかげ学科 ● テサンイン  
● クラフトビール部 ● 交野伝説学科  
● カフェ部 ● 酒づくりの会 ● かたのカン  
● KATANOホイスコーレ準備室  
● 目指せ。交野でティラノサウルスレー

するオリジナル日本酒は、その品質の完売するなど高稼いでいます。

「やつてきました！」

の子ども食堂」

が特別なものと  
シ屋さんの子ど  
もたちが参加して  
。地域に根差し  
する「パン屋さん」  
、「すべての子ど  
の食事をここで  
りを楽しんでいます。

広がる活動と地域貢献

未来へ繋ぐ「百天満天」

酒づくりの会」の活動は、酒米栽培や酒造りだけに留まりません。酒蔵での酒造り体験や案山子作りなど、多様なイベントも開催しており、イベントには他学科の学生達や地域の方も参加で、きる開かれた交流の場となっています。「一人ではできない」とを、10人、50人、100人で」という大学の理念を体現するよう」、多くの人々が協力し、共に汗を流しながら交野での日本酒づくりを楽しんでいます。

今回の「パン屋さん」の子ども食堂は、地域への愛着を育む素晴らしい機会となつたのではないかと考えています。

「百天満天」は、ただの日本酒ではありません。交野の豊かな自然と、そこに暮らす人々の情熱、そして子どもたちの笑顔が詰まつた、まさに地域を繋ぐ一杯なのです。今年の稻刈りや来年の田植えにも、多くの子どもたちが参加いただき、その笑顔が満開になることを願つてやみません。